

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2026年9月号

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川聡子



9月に入ってから暑さが続いています。看護学生の皆さん、今年はどんな夏を過ごされましたか。8月26日にネパール・中国の国境付近で発生した氷河の崩落による土石流は、日本人を含む大勢の命を奪い、未だ行方不明の方もたくさんいるとてつもない未曾有の災害です。日本でも各地で大雨による災害が発生し、犠牲者も出ています。これらは、気候温暖化による気候変動の影響だと言われています。医療や看護は、地球環境や温暖化と直接関係が無いように思われますが、治療や処置で使用している医療器具や日常で使用するケア用品のほとんどが使い捨てです。感染管理上、資源としての再利用も出来ません。そして、それらがゴミとして廃棄される時には、多量のCO₂を排出することになります。信和会では、微力ながらも地球環境を視野に入れた取り組みとして、医療廃棄物や電力の削減に取り組んできました。一見、関係が無さそうなことでも掘り下げていくと関連性がみえてきます。看護学生の皆さんにも私事として考える、広い視野を持っていただきたいと願っています。

京都民医連あすかい病院 看護部長 征矢陽子



今年も極暑でしたね。そして、あちこちで地震や豪雨災害が起きています。地球が悲鳴をあげているようですね。そして物価高が止まらない（怒）。なぜなぜ？と出来事を紐解いてみたら、自分たちの生きやすい社会がどのようなものか見えてくるかもしれないな、と思います。その知識をもって、患者さんや家族の方に寄り添えるケア労働者を目指してください。きっと、看護師への力は湧いてくるはず。仲間たちとは、うれしい事を共に、辛い心を支え合って。笑える学校生活にしよう。

京都民医連あすかい病院 リハビリテーション副部長 足立香織



奨学生の皆さん、こんにちは。看護師になるための勉強をしているこの時期、就職して、働きだすと懐かしく思い出すと思います。貴重な時間を目いっぱい楽しんでください。医療の現場は、今後高齢者の人数増加に伴い医療費抑制を求められ、大変な側面もあります。ただ、日々接している患者さんにとっては、私たちの存在が助けてくれる医療そのものであるとも感じます。患者さんの一番近くで、適切な医療を提供できる看護師になられるのを心待ちにしています。困ったこともあると思いますが、すべて今後の糧になる、と思いひとつひとつ乗り越えていってください。

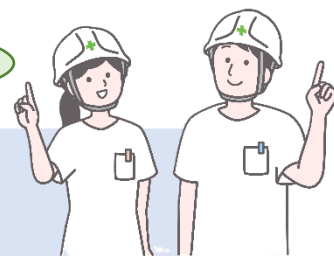
京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部理奈



季節は秋へ、一年も後半に入りました。授業や実習など、忙しい日々の中で、思うようにいかないことや迷うこともあるかもしれません。でも、その一つひとつの経験が、看護を学ぶ大切な一歩です。焦らなくても大丈夫ですよ。仲間と一緒に、たくさん経験して、たくさん考えて、時には楽しみながら、看護の基礎を一つひとつ育てていきましょう。皆さんのこれからの成長を応援しています。

法人・病院の取り組み紹介

BCP 災害時対応訓練の様子



8/13(木) BCP 訓練を実施しました。BCPとは「**事業継続計画 (Business Continuity Plan)**」のことです。一言でいうと、大地震や停電といった災害が起きた時に、病院を止めずに患者さんの命を守り続けるための準備とルールを意味します。

今回の訓練では、震度6の地震が発生したことを想定し、災害時にどのように対応すべきかをシミュレーションしました。参加者は、病棟で現場の安否確認や避難誘導を行う役割、災害本部として全体を把握する役割、自部署の被害状況を報告する役割などに分かれ、それぞれの動きを確認しました。



↑ 訓練前のオリエンテーション（学習）

【訓練の目標】

- ・被害状況・職員と患者の状況を把握し、本部に情報を集中できる。
- ・本部は被害状況に合わせて行動を指示できる
- ・EMIS（イーミス）の使用方法が分かること

※EMISとは「広域災害救急医療情報システム (Emergency Medical Information System)」のことで、大規模災害時に医療機関の被災状況や稼働状況をリアルタイムで共有し、迅速な医療救護活動を支援するシステムのこと。

【参加した職員の感想】

・平時からの想定、訓練、とても大切だと思います。災害など緊急事態はいつどの時間帯に発生するか予想がつかないため、訓練の機会を定期的に持って複数の職員が訓練に参加しておけると良いと思います。

・現場が落ち着いていたらすぐに動けるが、混乱していたり施設損壊が大きいと把握に時間がかかると思います。

今回は、病院全体での訓練だったが、職場内での訓練の必要性を強く感じました。

・石巻日赤（311 発災時の対応の様子＊事前学習で使用）の映像はとても教訓となる貴重な映像だと感じました。災害など緊急事態に起こることへの対応は現場での臨機応変な判断が必要だとは思いますが、平時からの事前想定がしっかり行えているかどうかによっても実際の発生時の対応が大きく左右されると思いますので、今日のような訓練はとても大切だと思います。

いざ災害が起きた時、何から始めるべきか咄嗟に判断することは難しいことです。だからこそ、日頃からの訓練が何より重要になります。今後も BCP に基づいた訓練を繰り返し行い、いざという時に誰もが落ち着いて患者さんや職員の命を守れる体制づくりを目指していきます。



↑ 訓練中の様子① 情報を集約する本部



↑ 訓練中の様子② 病棟での様子



原水爆禁止世界大会

今年は被爆 81 年。毎年開催される原水爆禁止世界大会が今年は広島県にて開催されました。8/4～6 で開催された広島大会にあすかい病院からは 3 名の職員が参加。そのうち看護部からも 2 名参加しました。参加した看護師 2 名に感想を聞きました！

回復期リハビリテーション病棟 松尾歩美さん

あすかい病院の回復期病棟で看護師をしている松尾です。

今回、初めて原水爆世界大会に参加しました。日本だけでなく世界中の国がこの大会に参加し、核兵器廃絶への思いを熱心に訴えられている姿を見てとても感銘を受けました。また実際に被爆者の方々の証言を聞いたり平和記念資料館にも行ったり、原爆が広島に投下された当時の悲惨な様子を学ぶことができました。医療従事者として、無差別に人の命を奪う原水爆はこの世に存在してはならないと強く思いました。大会の演説では多くの方が「No More 広島 No More 長崎 No More 被爆者」と語られていたことが印象的でした。今回の大会や取り組みを通して反核平和の願いが世界中の人達に広まり、核兵器廃絶への一歩になることを願っています。



左が松尾さん、中央が谷口さん

地域包括ケア病棟 谷口陽奈さん

今回、初めて原水爆禁止世界大会に参加して、核兵器の問題は決して過去のものではなく、現在も世界中で考え続けなければならない問題であることを改めて感じました。被爆者の方からのお話からは、原爆による被害の大きさや、被爆者の高齢化によって平和への思いを次の世代に、どのように受け継いでいくかという課題について学びました。また、海外代表の方々や、全国各地で平和活動を行う人々の姿を通して、平和を願う思いは国境を越えて繋がっていることを実感しました。平和は一人ひとりが関心を持ち、行動することで築かれていくものだと思います。

今回学んだことを自分の中だけで終わらせず、周りの人にも伝えながら、平和のために自分自身に何ができるかを考え、これからも行動していきたいと思いました。



左が谷口さん、右が松尾さん

あすかい病院 診療情報管理課

こんにちは、あすかい病院の診療情報管理課です。

当課では、診療録の価値を十分に発揮できるよう、診療情報の整備や、統計・データの抽出、診療録の開示、病歴資料の保管管理などを行っています。

2008 年の電子カルテ導入後は、診療情報の管理方法も大きく変わりました。電子化された情報を適切に管理することに加え、電子カルテから必要な情報を確認・活用する業務や、システムを通じた情報管理など、新たな役割も増えています。

これからも患者さんの診療に必要な情報を適切に管理・活用し、医療を支える診療情報管理課として、日々の業務に取り組んでいきます。



あすかい病院 キラッと看護の紹介



地域包括ケア病棟

〈南 2 病棟〉多職種が同じ方向を向いて

レスパイト入院の胃ろうを増設されている患者さん。こまめな注入でも吐き気があり注入量は増やせない状況に加え、尿路感染も起き、中々退院できずにいました。そうした中で、テレビを見たり、お話ししたりしながらだと吐き気を催しにくいことが判明。そこで注入時間を固定せずに、例えばリハビリの際やテレビ鑑賞のタイミングに合わせて注入するという対応に切り替えました。また、点滴の量も以前は 1 回 500ml でしたが、補液分を白湯に切り替えて注入時に補うことで対応したりしました。リハビリスタッフとも協力し、チーム全体で水分摂取量を確保して退院へ繋げることができました。多職種が同じ方向を向いて患者さんと向き合えたエピソードです。

〈北 3 病棟〉身体拘束を少なくする努力と患者さんの思いに寄り添う

認知機能が低下している高齢の患者さん。独歩は難しく転倒リスクのある方で、股ベルトを使用されていました。しかし本人の思いとしては、「股ベルトは嫌だ」とのことでした。そこで股ベルトをやめ、座コールの使用や見守り強化に切り替えることにしました。夕方になると不安が強くなりましたが、タオル折りや塗り絵といった詰所での作業をしてもらう中で夜も眠れるようになり、穏やかに過ごせるようになりました。患者さんの思いを踏まえて身体拘束を少なくしていく努力と工夫ができたエピソードでした。

南 2 病棟（地域包括ケア）の紹介

南 2 病棟は、43 床の地域包括ケア病棟です。急性期の治療を終えた患者さんや、自宅や施設で療養中に緊急の入院が必要になった患者さん、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんに対して、治療と共に在宅復帰に向けてリハビリテーションや栄養管理などの支援をしたり準備をしたりする病棟です。

今年の 7 月に一般病棟から地域包括ケア病棟へと機能が変わったこともあり、スタッフ一同、日々勉強しながらみんなで患者さんの早期退院に向けて頑張っています。また看護師だけでなく、医師、看護補助者、リハビリスタッフ、薬剤師、相談員、栄養士、事務員などといった多職種の連携により、それぞれの専門性を活かしながら患者さんを支えています。

